

アレクサンダー・ザルテン
Alexander Zahiten

1973年アメリカ・ウィスコンシン州マディソン生まれ。現在はボストンと京都を拠点に活動。ハーバード大学東アジア言語・文学部助教授。2003年から2005年まで日本大学で論文研究を行い、2009年から2011年まで明治学院大学言語文化研究所特別研究員。トングク大学(韓国)映画デジタルメディア学科准教授(2011-12)を経て、現職。1960年代以降の東アジア、特に日本の映画や視覚文化について、歴史的・政治性のさまざまな観点から考察し、ピンク映画や角川映画、Vシネマのような大衆映画における普及システムの変遷などをテーマに論文を執筆。

PARASOPHIA

E-1. 極東のマンション

[作品解説]

作品解説：アレクサンダー・ザルテン、一部 PARASOPHIA事務局が編集・加筆、英文和訳：永江敬祐

A-1. アジア秘密警察 [日本版] ……1966 (日活)、97分、35mm、カラー

監督：松尾昭典 脚本：山崎巖 出演：二谷英明、浅丘ルリ子、穴戸錠、ウォン・ハップ、フォン・イン 上映協力：日活株式会社

A-2. アジア秘密警察 [香港版] ……1967 (日活・ショウブラザーズ)、97分、DVD上映、カラー © Licensed by Celestial Pictures Limited. All rights reserved. 監督：松尾昭典 脚本：山崎巖 出演：ジミー・ウォング、浅丘ルリ子、穴戸錠、ウォン・ハップ、フォン・イン 上映協力：Celestial Filmed Entertainment Limited

東アジアをまたがる追跡を伴う、古典的な秘密諜報員の冒険劇。アジア警察秘密情報部の諜報員である主人公が穴戸錠率いる国際密輸組織と戦うが、自身の過去にまつわる秘密を発見することになる…。映像は色彩に富み、また、本作がその手本とするジェームズ・ボンド映画のような秘密兵器が数多く登場する「アジア秘密警察」は、日活と香港のショウ・ブラザーズの共同製作作品である。本作には、異なる主役で撮影された2つのバージョンが存在する。香港で公開したバージョンでは、香港のスーパースター、ジミー・ウォングが、日本公開のバージョンでは、日活の俳優、二谷英明が配役された。映画の終結部で展開する国際的な家族のドラマは、植民地時代に遡る家庭メロドラマを通して、アジアにおける戦後の諸問題を解決しようとする試みである。二つのバージョンを比較するのは魅力的であり、また、松尾の創意に富む視覚的スタイルは、全アジアを激しく起伏しつつ移動するような体験へと本作を仕立てている。

B-1. ホノルル・東京・香港 ……1963 (東宝＝キャセイ・オーガニゼーション)、102分、35mm 監督：千葉泰樹 脚本：松山善三

出演：宝田明、ユー・ミン、加山雄三、星由里子、草笛光子 所蔵：東京国立近代美術館フィルムセンター

1960年代初頭に始まった、東宝と香港のMP&GIによる共同製作作品のひとつである。宝田明とユー・ミンの民族を越えたロマンス。この陽気なコメディは、ハンサムな日本人兵士や、現地の女性とのロマンスを扱う植民地時代における日本映画と興味深い緊張関係にある。

B-2. あんにょん由美香 ……2009 (スポットテッドプロダクションズ)、119分、35mm、カラー 監督：松江哲明

出演：林由美香、ユジンソン、キム・ウォンボク、いまおかしんじ 上映協力：株式会社スポットテッドプロダクションズ

自身の活動期において最も著名なAV女優の一人であった林由美香の記念イベントで、松江哲明は、彼女が主演していた無名の韓国製ポルノ映画のあるシーンを目にする。このはっきりしないタイプの出演、そしてそれらの映像が持つ意味に興味を惹かれ、彼は、当時の出演者たちと製作チームを見つけるために韓国へ向かう。それは思いもよらない交流を生むことになる。

C-1. サウダーチ ……2011 (空族)、167分、35mm、カラー 監督：富田克也 脚本：相澤虎之助、富田克也

出演：鹿野俊、伊藤仁、田我流、ディーチャイ、パウイーナ、尾崎愛、工藤千枝 上映協力：空族

建設作業員、ブラジル人移民、右翼のラッパー、タイ・バーのホステスたちが、山梨県甲府市を舞台にぎこちない人間関係を構築する。本作は、経済的不況にある隔離された地方共同体なかで、新しい種類の社会を形成することに関する問題を探索する。グローバリゼーションと、グローバリゼーションに惹きつけられる感情、それに起因する後悔や怒りが日本の一地方で渦巻く。

C-2. アジアはひとつ ……日本ドキュメンタリストユニオン(NDU)、1973、96分、16mm 上映協力：神戸映画資料館

日本ドキュメンタリストユニオンは、日本で最も国際的な思想を持ったドキュメンタリー制作集団の一つである。彼らは映画撮影のためにアジアと中東を横断し、常に日本を地球規模のシステムの一部として位置付ける。この魅力的な作品は、沖縄と台湾の間を移動することで日本による植民地拡大によって残された足跡と、日本と「アジア」の間の歴史の中に自身の場所を見つけようと試みる諸々の声を調査する。

D-1. 中国の鳥人 ……1998、118分、35mm、カラー 監督：三池崇史 原作：椎名誠

出演：本木雅弘、石橋蓮司、マコ・イマツ、王麗賢 上映協力：セディンクインターナショナル

ビジネスチャンスを探し、中国の奥地の村へと旅をするサラリーマンとヤクザを描いたこの物語は、本木雅弘と石橋蓮司が主演を務める。1990年代以降の多くの映画と同様に、詩的かつ美しく描かれたこの映画は、アジアを現代日本と対照的に神秘的な古の場所として描きながらも、他の多くの作品とは異なり、本作はこの種の単純なエキジチズムを複雑化しようとしている。

D-2. 地球で最後のふたり ……2003 (クロックワークス)、117分、35mm、カラー 監督：ベン・エーグ・ラッタナルアーン

出演：浅野忠信、シンター・ブンヤサック、ライラ・ブンヤサック、松重豊、竹内力、三池崇史 上映協力：クロックワークス

日本、オランダ、タイ、フランス、シンガポールの合作である本作は、タイに暮らすある日本人男性の物語に基づいている。彼の人生は、逃亡してきたヤクザの兄の登場によって変わっていく。ブラーブダー・ユンによる脚本、三ヶ国語で撮影され、主演に浅野忠信を起用し、タイ人が監督を務めた。数々の賞を受けたこの作品は、他の作品よりもはっきりと映画作品が単純に一つの「国籍」へと割り当てられうるのかどうかを私たちに問う。

E-1. 極東のマンション ……2003、32分、8mm、カラー ※今回はDVDでの上映になります 構成・撮影・編集：真利子哲也 上映協力：真利子哲也ファンタジーとフィクションにまたがる魅力的かつ興味深い旅において、真利子哲也は、日常生活に埋め込まれた映画をいかに作るかを探索する。自身の部屋とカンボジアの村落の間を飛ぶように移動しながら、真利子は、映画空間と個人的・内的な空間の間にある奇妙で深遠な繋がりを、私たちの私的空間と最もつながりの深い映画のメディアムである8mmフィルムを用いて探索する。

E-2. 波濤を越える渡り鳥 ……1961 (日活)、79分、35mm、カラー 監督：斎藤武市 原作：原健三郎 脚本：山崎巖

出演：小林旭、穴戸錠、浅丘ルリ子、白木万理、小高雄二 上映協力：日活株式会社

「渡り鳥シリーズ」第六作となる本作では、小林旭が再び銃とギターで武装したさすらいの人を演じ、従来の作品におけるお決まりの「無国籍」な領域から主人公を外国へと連れ出した(香港とタイでの海外ロケを行った)。本作では日本の植民地主義の歴史に密接に関連する、国際的な家庭メロドラマが展開する。

E-3. ディア・ビョンヤン ……2005、107分、35mm、カラー ©Yonghi Yang 監督・脚本・撮影・ナレーション：梁英姫[ヤン・ヨンヒ] 上映協力：スターサンズ

監督ヤン・ヨンヒは、国と世代をまたぐ彼女自身の家族の離散に対して、一つの見解を示す。緊張とユーモアに満ちた父との長い議論において、三人の息子を北朝鮮へ送り住まわせた父の、北朝鮮に対する複雑な関係を理解しようとする。

PARASOPHIA シネマプログラム

主催：京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市

協力：アテネ・フランセ文化センター、Celestial Filmed Entertainment Limited、東京国立近代美術館フィルムセンター

5月のPARASOPHIA シネマプログラム(いずれも5月上旬予定)

参加作家特集：アラン・セクーラ

アラン・セクーラ&ノエル・バーチ「The Forgotten Space」(2010、112分)

参加作家特集：石橋義正

石橋義正「オー!マイキー特別編 2004」(2004、60分)

アレクサンダー・ザルテン 「アジアを照らさないミラーボール。日本映画のアジア」

PARASOPHIA シネマプログラム

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015では、メイン会場のひとつである京都府京都文化博物館フィルムシアターを会場に、会期中、シネマプログラムを行います。**PARASOPHIA** 参加作家に名を連ねる映画研究者アレクサンダー・ザルテンは、「日本映画におけるアジア」に焦点を当て、1960年代から近年までの日本の映画を中心に取り上げます。娯楽映画、ドキュメンタリー、実験映画など11作の上映を通じて、日本映画において自国と他国を表象しようとした跡を読み直すこのシネマプログラムは、当事者が客観的に語るには複雑過ぎる「東アジアの近代」の物語を、非当事者であるザルテンが選んだ映画の連鎖が紡ぎ出すメタ物語として、当事者である私たちが再読する試みとなるでしょう。

2015年4月5日(日)–4月19日(日) 京都府京都文化博物館フィルムシアター

京都市中京区三条高倉 ＊京都市営地下鉄烏丸線・東西線「烏丸御池」駅5番出口から東へ徒歩3分

●**入場料**：PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭 2015の入場チケットの提示で本プログラムを何度でも鑑賞いただけます。入場の際にチケットをご提示ください。
●**本芸術祭入場チケット料金**：[当日券]一般 1,800円、大学生 1,200円、70歳以上 1,200円、高校生以下無料 ●**定員**：174席 ●**上映言語**：現在上映を予定している全ての作品は日本語もしくは原語+日本語字幕付き。また、トークは日本語で行います。
＊各回入替制。開場は上映開始の30分前。連続上映の場合、上映開始の10分前に開場します

[上映スケジュール]

(2-3 作品と一緒に鑑賞してその表現、物語、背景などを比較してお楽しみください。)

A-1.『アジア秘密警察』[日本版]

4月5日(日) 15:00、4月11日(土) 15:00

A-2.『アジア秘密警察』[香港版]

4月5日(日) 17:10、4月11日(土) 17:10

●トーク1：韓燕麗(中国語映画研究、関西学院大学准教授)×アレクサンダー・ザルテン
4月5日(日) 19:00-20:00

B-1.『ホノルル・東京・香港』

4月7日(火) 18:30、4月12日(日) 15:00

B-2.『あんにょん由美香』4月12日(日) 17:30、4月17日(金) 18:30

●トーク2：松江哲明×アレクサンダー・ザルテン 4月12日(日) 19:40-20:40

C-1.『サウダーチ』 4月9日(木) 18:00、4月18日(土) 14:00

C-2.『アジアはひとつ』 4月10日(金) 18:30、4月18日(土) 18:00

D-1.『中国の鳥人』 4月14日(火) 14:00、4月15日(水) 18:30

D-2.『地球で最後のふたり』 4月14日(火) 18:30

E-1.『極東のマンション』

4月16日(木) 18:00、4月19日(日) 13:30

E-2.『波濤を越える渡り鳥』

4月16日(木) 19:00、4月19日(日) 14:30

E-3.『ディア・ビョンヤン』

4月8日(水) 18:30、4月19日(日) 17:00

●トーク3：ヤン・ヨンヒ×アレクサンダー・ザルテン

4月19日(日) 19:00-20:00



A-1. アジア秘密警察(日本版)



B-2. あんにょん由美香



C-2. アジアはひとつ



E-2. 波濤を越える渡り鳥



E-3. ディア・ビョンヤン